

ICTを活用した学校・家庭・日本人会との連携と情報発信の実践

前ナイロビ日本人学校 教諭

秋田県湯沢市立皆瀬小学校 教諭 佐々木 勉

キーワード：ICT, 情報発信, 連携

1. はじめに

ケニアの首都ナイロビは、治安ならびに児童生徒の安全確保に関して、細心の注意を払わなければならない地域である。平成25年3月には大統領選挙を控え、なお一層の警戒体制を築き上げる必要があった（前回2007年の大統領選挙時は、民族対立感情が激化し、ケニア国内各地で暴動が発生し、1000人以上の死者が出ている）。児童生徒の安全を確保するため、いかに情報共有体制とそのシステムを構築したらよいか、また、ナイロビ日本人学校の取り組みやここで学ぶ児童生徒の姿を伝え、さらに連携を強めるためには、どのようにしたらよいか。情報担当、現地教頭として実践した情報発信のありかたを紹介したい。

2. ねらい・目的

- ・日本と大きく異なる児童生徒の生活環境をふまえ、保護者が安心して子女を通学させられる情報環境をつくる。
- ・ICT（information and communication technology）を活用した学校・家庭間の連携の実践をとおり、小規模校において実現・継続可能な情報共有のありかたを探る。
- ・実践の効果を検証し、より実際的な情報発信、情報共有のありかたを整理する。

3. 実践の概要

(1) 学校ホームページの運営実態

- ・ナイロビ日本人学校のホームページは、平成8年に開設されている。「ホームページビルダー」（IBM、ジャストシステム）を使用して作成していた。
- ・平成22年度は、教頭が担当しており、自身のPCにソフトをインストールして更新していた。更新頻度は、月に一度。内容は、おもに学校報「じゅまもし」に掲載された記事や、編入学についての案内、アクセスマップ、学用品や使用教科書についての情報だった。
- ・学校単体でサーバーを所持していないため、在ケニア日本国大使館の広報文化センターのサーバー容量の一部を借りてインターネット上にアップしていた。そのため、作成・更新したデータをUSBメモリにコピーし、大使館の担当者に渡してアップロードしてもらっていた。

(2) 学校ホームページ運営の課題

- ・平成22年度までの運営状況から捉えられた課題は、以下の3点である。
 - ① 学校ホームページの管理運営は、ソフトを扱う知識や技能が必要であり、少人数の日本人学校では、年度によって経験者がゼロになる可能性が高い。
 - ② ナイロビは、治安の悪い地域であり、安全に関する情報共有や緊急連絡体制を常に整備しておかなければならない。加えて、国外退去あるいは学校一時閉鎖等の措置をとらざるを得ない事態になった場合、ホームページソフトがインストールされたPCを国外に持ち出すのは、現実的処置とはいえない。
 - ③ 少人数校である本校では、教員一人当たりが担う校務分掌が多岐にわたる。そのため、ホームページ更新まで手が及ばないこともあると予想される。
 - ④ 学校⇔大使館の情報伝達は、頻繁に行えるわけではなく、そのため情報発信が遅れがちになってしまう

傾向があった。

- ⑤ 緊急事態における情報発信の拠点とするには、更新の手間、大使館へのデータ輸送にかかる時間等、機動性が不足している。

(3) 学校公式ブログ開設とその活用実践（学校からの情報発信）

- PC 本体や機種、ソフトの有無に左右されず、インターネット環境さえあればいつでも最新の情報を保護者に提供できるようにする必要があった。そこで利用したのが、インターネットブログである。
- 日本のインターネットプロバイダ「fc2」の無料サーバーレンタル（2GB）を利用。ナイロビ日本人学校の子ども姿を伝える「たくましく ゆたかに 大地を吹く 風になれ」を開設した。（23年度）
- 週に2～3本のペースで記事をアップし、日常の子どもたちの姿を写真とともに紹介している。写真は、年度当初あるいは編入学時に情報公開についての同意書を提出してもらい、保護者了解のうえで、掲載している。

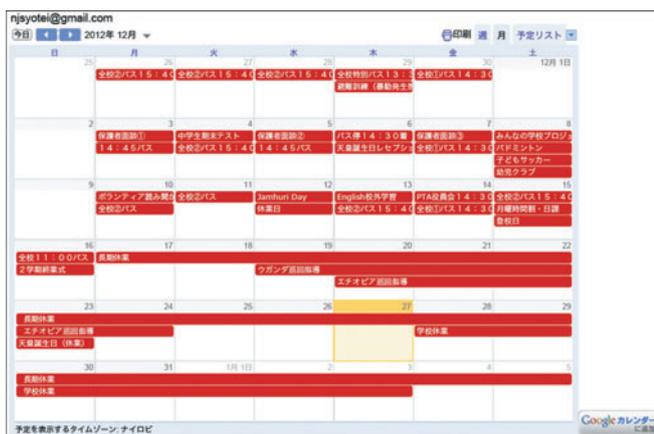
【運営上の留意点や配慮する事項】

- ・ 個人名は記載しない。
- ・ 特定の児童生徒の写真が多く掲載されたりすることがないように、バランスを考えた写真の選択をする。
- ・ 運動会、学習発表会など、大きな行事の記事を掲載するときは、必ず全校児童生徒が写った写真を掲載するようにする。（名簿を活用して点検する）
- ・ ケニアのインターネットはまだ速度が遅いため、写真は100KB程度にリサイズして、ページの表示が軽くなるようにする。
- ・ 記事の作成にあたっては、できるだけ客観的な記述を心がける。
- ・ 言葉を必要最小限に削り、児童生徒の写真を中心に据える。



(4) Google カレンダー共有化の利点（保護者との連携強化）

- 学校ブログの一部に、Google カレンダーを埋め込んで表示できるようにした。学校の月行事予定が確定して発行されると同時に、更新している。月の予定や帰りのスクールバスの時刻などを掲載し、保護者が学校の動きを随時確認し、安全に登下校できるようにしている。



- ・ 子どもの学校生活の様子・姿を伝えると同時に、学校の予定を長期スパンで保護者と共有することで、互いに見通しをもった教育活動を連携して行えると考えた。
- ・ ブログ開設にあたって取得したGoogle アカウント（メールアドレス）を活用し、カレンダー共有を試みた。
- ・ カレンダーは、誰でも閲覧可能に設定し、ブログの一部に埋め込むことで、ブログページに訪問した人がいつでもナイロビ日本人学校の予定を把握できるようにした。

(5) Google Drive を活用したリンクの作成と情報公開

- 学校ホームページには、学校の基本情報、紹介、アクセスマップ、新入学や編入学に係る準備等、多様な情報が掲載される必要がある。これらの機能を学校ブログに引き継ぐために活用したのが、Google Drive である。
- 必要なファイルをクラウドに保存し、ブログとリンクを設定することで、必要な情報にワンクリックでアクセスできるようになった。学校ホームページの機能をすべてブログからのリンクで賅えるようになったことにより、情報発信拠点が学校ブログに一本化され、管理運営がより簡便になった。

・24年度にリンクに加えた項目は、以下の通りである。

- | | |
|---------------|-----------------------|
| ① 学校案内パンフレット | ⑨ 24年度学校報「獅子波」バックナンバー |
| ② 使用する学用品等 | ⑩ ナイロビ日本人学校の概要 |
| ③ 転入（編入学）申請書 | ⑪ 校歌校章について |
| ④ 新入学申請書 | ⑫ ナイロビ日本人学校の沿革 |
| ⑤ スクールバス利用申請書 | ⑬ ナイロビ日本人学校施設備品借用申請書 |
| ⑥ 入学諸費用 | ⑭ ナイロビ日本人学校施設使用規則 |
| ⑦ 体験入学申請書 | ⑮ いじめ発見チェックポイント |
| ⑧ 使用する教科書について | ⑯ ナイロビ日本人学校同窓会ホームページ |

(6) twitter を活用した連絡の速報（ナイロビの治安情勢への柔軟かつ迅速な対応）

- 学校ブログに、twitter も埋め込み、常に表示されるように設定している。大使館からの治安情報を受け、急きょ日課変更や帰りの時刻の変更、あるいは保護者に子どもを引き渡す場所の変更など、ナイロビは常に予断を許さない環境にある。そのため、ブログ更新よりも短時間で対応できるtwitter を活用している。また、提出物の期限や学校からのお知らせなども、随時アップし、保護者へのリマインドや情報共有の手段としても活用している。

・twitter 最大の利点は、緊急時に再短時間で情報を発信できる点にある。

【活用例】

- ・ワールドトレードフェア等、かなりの渋滞が予想され、下校時刻が変更になった場合。
- ・スクールバスが故障し、急きょ通常と違う運行体制をとらなければならなくなった場合。
- ・市内で大規模なデモが行われ、治安情勢が悪化すると判断され、急きょ下校時間を変更した場合。

The image shows three tweets from the account 'njscommu' (ナイロビ日本人学校). The first tweet, dated 15 days ago, discusses a long-term closure from Dec 17 to Jan 6 and asks for parental cooperation. The second tweet, dated 23 days ago, requests parents to pick up their children early due to bus issues. The third tweet, also dated 23 days ago, provides a more detailed update on bus problems and asks for direct communication with parents.

(7) 専用SIMカードを使った保護者への緊急連絡SMSの発信（ナイロビの治安情勢への柔軟かつ迅速な対応）

- 学校ブログやtwitterは、いつでも閲覧できる利点をもつ反面、アクセスして見ない人にとっては、情報が伝わらないという静的な面をもつ。子どもたちの安全についての緊急連絡は、確実に保護者に伝わる必要がある。動的な情報連絡手段として、携帯電話によるSMS発信のシステムを整備した。
- ケニアの携帯電話は、SIMフリーである。緊急連絡専用のSIMカードを用意し、全保護者の電話番号を入力。緊急時はこのSIMを使い、一斉に情報を配信している。

- ・ 緊急事態発生時は、携帯電話で各学年部教員から保護者へ個別連絡を行い、重要な情報伝達の遺漏がないようにしている。
- ・ 上記緊急個別電話連絡に加えて、緊急連絡SMSを学校から発信することで、情報の混乱やまた聞きによる誤解を防ぐようにしている。

4. まとめ

- (1) 治安情勢が刻々と変化し、常に危機管理意識を高く保たなければならないナイロビでは、児童生徒に係る安全確保は、最重要事項である。また、学校内での安全はもちろん、登下校時の安全確保も同様に重要である。保護者との情報における連携は、日本の学校より格段に求められる。学校からの情報発信は、学校運営の肝である。今回の研究と実践により、校内の情報発信体制が整理され、即時性・確実性・緊急時の対応性を持たせ、また、一人当たりの校務分掌が多い少人数の日本人学校の教員が、多年度にわたって引き継いでいけるようになったことが、大きな成果である。
- (2) 学校ブログは、ナイロビの保護者はもちろん、日本在住の祖父母が楽しみに見ているという。日本から遠く離れたアフリカの地で暮らす孫の姿を見られることは、祖父母にとっての安心にもつながっていると聞いた。また、ナイロビ日本人学校を去り、帰国した家庭の子どもたちや保護者が今でもブログを見てナイロビの日々を懐かしんでいるという事例も聞いた。インターネットで即時的につながる効果であるといえる。
- (3) この研究実践は、インターネット環境が整っていることが絶対条件である。政変、クーデター、大規模なテロ等により、インターネット・携帯電話のプロバイダそのものが機能しなくなった場合、どれも通用しなくなる。最悪の事態を想定した最後の最後まで、職員は危機管理意識をもって保護者との連携の方法を構築し、それを实际的に更新し続ける必要がある。